

令和4年度 学校だより

2月号

横浜市立上郷小学校



上郷

〒247-0026 横浜市栄区犬山町6番1号

電話 045-894-0761

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamigo/>

新しいスタートの準備

上郷小学校 副校長 野村 光

サクラは、前の年を過ごしてきた結果、花をつける

新年の挨拶を交わしたことが、つい先日のように感じる二月。令和五年が始まり、早いものでひと月が経ってしまいました。大寒を過ぎた一月の終わりには、10年に一度の大寒波が日本列島を覆い、各地の交通網に影響を与えたというニュースは記憶に新しいところです。先週は、上郷小学校の校庭にある、4年生が改修作業を続けているビオトープにも厚さ1cmの見事な氷が張りました。今年はいつも以上に寒い二月を迎えたようです。

二月は「如月(きさらぎ)」とも呼びます。寒さで着物を「更に重ねて着る」ことからこのように呼ばれるという説があるようです。その年の最低気温が更新されたり、大雪が降ったりするのも二月が多いようです。過去の気象データからも1月26日～2月4日までが日本が最も寒くなる時期だと分かっています。つまり、今が一年で一番寒い時という訳です。

上郷小学校には周りを囲むように多くの樹木が植えられています。春に華やかに花をつける正門のサクラの木も、真夏に深紅の花を咲かせるサルスベリの木も、今はすっかり葉を落とし、細い枝ばかりが目立って、寒々しさを一層増しています。ただ、一見、全てのものが枯れて停止してしまっているかのようにも見える冬景色ですが、どうやらそうではないようです。

『春化(しゅんか、Vernalization)』という生物用語があります。植物が冬の低温状況に一定期間さらされることによって、開花能力が誘導されることをいうようです。例えばサクラの花も、冬の低温期間を経験しなければ花を咲かせることはできません。春化に必要な温度は、通常5から10℃です。丁度、冷蔵庫の中の温度と同じ位の低温です。この環境の中で植物体内のホルモンが活性化され、サクラは初めて開花の準備を始めることができるのです。

上郷小グリーンボランティアの方を中心にお世話をいただいている学校の野草園も、今は茶色い土の表面ばかりが目につきます。しかし、その表面をよく観察すると、土と同じ色をした小さなネジリカタバミのふんわりとした新芽を見つけることができました。上を見あげると、丸裸だと思っていたシダレザクラの木の枝先にも、ふっくらとした黄緑色の芽が育っていることにも気づきました。植物たちは、止まってはいませんでした。穏やかな春の日に、満開の花を咲かせるために、止まることなく今から着々とその準備を始めていたのです。

二月の別名を「生更木(きさらぎ)」、つまり「草が生え始める月」という言い方をする説もあるようです。極寒の中、次の季節の準備が静かに確実に始まっている…そんな時季が、「今」なのだと思います。

子どもたちの学習も、いよいよまとめの段階に入ってきました。あと2か月余りで、新しい学年が始まります。やがて吹く暖かな春風の中で元気にスタートを切るために、今から少しずつ新しいスタートの準備を始められるとよいと思います。

学校ホームページ<校長室の窓>では、上郷小学校の様子を伝えるコラムを更新しています。ご覧いただけると幸いです。